

中央大学 2025 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	文学部・学士入学試験
科目	外国語（英語）

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

I. 「文学における言語行為」は、文学作品の中で発される言語行為、例えば、小説の中で登場人物や語り手によって発話されたり書かれたりした約束、嘘、言い訳、宣言、赦しを求めること、謝罪、赦しなどを意味することがある。それはまたひとつの文学作品が全体として行いうる行為遂行的な次元を意味することもある。小説を書くことは言葉によって行為を行う方法でもありうるのだ。アントニー・トロロープによる『彼女を赦せますか？』という題名が問うているのは、プランタジネット・パリサーが自分の妻の未遂に終わった不倫を赦せるかどうか、またジョン・グレイがアリス・ヴァヴァサーを（小説の中で）赦せるかどうかだけではなく、私たちが読者としてこれらの 2 人の女性たちを赦すことができるかどうかでもあるのだ。

II. Nowadays, speaking—especially speaking loudly—is considered a virtue. Eloquent self-promotion is required in job hunting, and classes focusing on oral presentations are very popular in higher education. Our current society places more emphasis on speaking than ever before. However, this should not be the case. What truly matters is listening. Listening to voices that will otherwise fade away, and preserving their words in writing. There have been times and places where written records or even keeping diaries was thoroughly suppressed by authoritarian rulers. With this in mind, we can say that listening to the voices of others and writing down what they have to say is essential in creating a free society.

中央大学 2025 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	学士入学
科目	社会情報学専攻

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

以下の要素を踏まえつつ、実例を交えながら論じることが望ましい。専門用語が書けなくても、対象の事象について言及できていれば加点する。

「情報環境の要因」としては、SNS の普及により誰でも情報発信ができるようになったこと、ネットの閲覧・検索履歴により、接する情報にアルゴリズムによるバイアスがかかりやすくなったこと（フィルターバブル）、また、情報の質ではなく、いかに注目を集めるかがアクセス数として経済的な利益を生んでしまうこと（アテンションエコノミー）が挙げられる。

「利用者の要因」としては、SNS 中心の情報接触により、「自分の見たいもの、信じたい情報だけを見聞きしてしまう」（選択的接触、確証バイアス）ことが挙げられる。また、同じような意見を見聞きしやすい SNS 環境（エコーチェンバー）の中で、偽情報や誤情報に繰り返し触れることで、その情報が真実であるかのように信じてしまいやすくなる。

「技術的対策」としては、偽情報・誤情報をマネタイズしないこと、すなわち、アクセス数や再生数だけが収益に結び付くことがないようにすることが考えられる。

中央大学 2025 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	学士
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

まず、学校だけでなく、家庭や地域も含めて教育のあり方を問うような事例を一つあげて、関心を持つに至った経緯を的確に表現していること。次に、取り上げた問題、例えば子ども、若者、学校をめぐる課題が、これまでどのような展開を見せているのかを整理した上で、教育学での議論を踏まえつつ、自らの考えを論理的かつ説得的に展開していること。